



# 教育委員会会議 平成 28 年 9 月定例会 会議録

( 13 : 30 )

## 1. 開 会

## 2. 教育長あいさつ

## 3. 会議録の署名者の件について

津山市教育委員会会議規則第 15 条第 2 項の規定による。

## 4. 前回会議録の承認

全員賛成

## 5. 教育長等の報告

今回は特になし

## 6. 議事

### (1) 議案

#### 津山市教育支援委員会委員の委嘱及び解嘱について（学校教育課）

概要説明

津山市教育支援委員会規則第 3 条及び第 4 条の規定に基づき、次のとおり委嘱及び解嘱をする。

全員の挙手により原案通り可決承認

#### 津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱について（生涯学習課）

概要説明

津山市青少年育成センター運営審議会委員については、条例施行規則第 5 条に基づき教育委員会で委嘱をしていただくことになっております。今回の委嘱については、一斉改選によるもので、そこに記載をさせていただいております各団体の役職の方 13 名に任期 2 年間で 10 月 1 日から委嘱をお願いする。

全員の挙手により原案通り可決承認

### (2) 報告

#### 市議会 9 月定例会の質問答弁について（各課）

概要説明

（学校教育部）

9 月定例会は 8 月 29 日に開会し 9 月 27 日までの会期で開催された。一般質問は、9 月 5 日から 9 日まで、決算議案の質疑が 9 月 27 日に行われ、その内学校教育部に属するものは、8 人の議員から質問をいただいた。各課とあるが各部ごとに報告する。まず、吉田議員から副読本の研修会をしたらどうかという質問があり、それに対して、副読本の学習においては、総合計画を通して子どもたちがふるさと津山を知り、愛する心を培うことを大きな目的としていること。教師が副読本を教材として活用するために、予め一定の知識や情報を把握しておくことが重要ですので、校長会議や学校教育研究センター研修会等の機会を捉え、今後も研修会等を実施していきたいと答弁しております。

竹内靖人議員から子ども議会について、その取り組みをどのように思われていますかという質問があり、議員ご提案の子ども議会についても、子どもたちが市長と直接意見を交わすことができ、政治の仕組みを理解し、主権者としての意識を芽生えさせる友好な手段のひとつであると考えていること。しかし、様々な課題があり、関係部署との連携のもと、校長会の意見なども聞きながら、実施に向けた研究をしてまいりたいと答弁を行っております。

岡安議員から、特別支援学級の現況と課題についてどうなっているのかという質問があり、現在、津山市内の全ての小中学校に特別支援学級があり、知的障害や自閉症・情緒障害等、障害に応じて個別の教育支援計画を作成し、適切な支援と必要な指導を行っていること。障害のある児童・生徒が、地域社会の一員として、様々な人々と交流し、主体的に社会参加しながら心豊かに生きていくことができるよう、

児童・生徒の自立に向けた教育活動の充実に努めてまいりたいと考えておりますと答弁しております。中村聖二郎議員から教師の年齢構成のアンバランスの改善方法や今後の見通しがどうなっているのかという質問をいただきました。年齢構成のアンバランスについては、教職員の採用を岡山県が行っていることから津山市だけで解消できる課題ではないこと、学校の安定した組織づくりには、男女バランスや配置校での勤務年数等に配慮しながら、これまで以上の工夫と改善が必要だと考えていると答弁しております。

村田議員から生きることの大切さを子どもたちが体験的に学ぶ教育に力を入れることについての見解はいかにという質問をいただきました。学校では、犯罪被害者の家族の方や震災を経験された方、身体のハンディを乗り越え社会で活躍されている方などを講師として招き、命の尊さについて学んでいます。体験活動を実施していくことで、生命の尊さや思いやりの態度を育てていきたいと考えていると答弁しております。

津本議員からは、教育・生涯学習施設の充実とは、どのような施設の充実でしょうかという質問でした。教育施設では、老朽化した学校施設の大規模改修や空調施設の整備などに取り組んでいること。また、生涯学習施設では、公民館の建替えや津山文化センターの大規模改修、美術館・博物館の整備、スポーツ施設の整備などを進めておりますと答弁しております。

美見議員から、就学援助費の学校給食費部分の支給割合を10割にする予算措置をすべきではないか。学校給食費の第3子以降の無料化の調査研究はしないのかという質問でした。議員からご提案があった、学校給食費について就学援助費の支給割合の引き上げ、第3子以降の無料化については、現時点での実施は困難であると考えていること、他都市の実施状況を踏まえて、その効果や実現の可能性などについて、引き続き調査研究を行ってまいりますと答弁しております。

最後に決算議案質疑から安東議員の質問がありました。津山市のICTを活用した教育についてしっかりと予算確保をお願いしていただきたい。教育長の意気込みはという質問でした。それに対して、津山市では、学校ICT環境整備事業を、津山市第5次総合計画の主要事業に位置づけ、計画的に実施していること。現在策定中の次期教育振興基本計画においても、重点取組として位置づけて、ICT機器を効果的に活用するためにモデル校を指定し、実践的な研究を行い、指導方法や指導体制を構築するとともに、年次的に機器の導入を進めること。そのための予算確保に努めてまいりたいと答弁しております。

#### （生涯学習部）

生涯学習部の関係では、10人の議員の方から質問をいただいた。最後に決算議案で1人お尋ねがありました。1日目、政岡議員から、質の高い市民意識の醸成の必要性和学校教育の在り方や向かうべき方向性などについて質問がありました。質の高い市民意識の醸成には、子どもの頃から家庭や地域の中でしっかりと愛され人とのふれあいや多くの体験活動などを通じて、高い倫理感や社会性を身に付けることが必要と考えていること。そして、学校教育においては、道徳教育や郷土学習の充実を図り、人や地域と関わる活動を通して、体験的に規範意識の醸成を図ることが大切であると考えていること。今後においても、家庭、地域と手をつなぎ、社会の形成者としての高い価値観や倫理観を育む教育活動の充実を図って参りますと答弁しております。

岡田議員からスポーツ振興都市宣言を行い、街づくりに取り組んできた成果と今後の取り組みと課題について質問がありました。津山市においては、スポーツを楽しめる機会の提供と環境の整備を行ってきたことで、スポーツ施設利用者の増加や全国大会出場者の増加など、一定の成果があったと認識している。今後は、「参加するスポーツ」「見るスポーツ」「ささえるスポーツ」を総合的に推進する必要があるとともに交流人口の増加と地域経済への効果を目指した「スポーツツーリズム」に取り組むことが課題と考えていると答弁しております。

吉田議員から、奨学金を活用した大学生等の津山市定着促進事業について質問がありました。PRの時期と方法については、議決後、広報紙、ホームページ、各種メディアを使ってPRを始めること、学生の間に登録していただくことが必要ですので、登録募集のチラシを津山広域事務組合の就活学生登録者や美作大学、津山高専の学生向けに11月頃から配布すること。また、制度周知のチラシを、市内の高校を卒業する進学希望者あてに2月に配布する予定であること。さらに、各企業に対して、10月以降、寄附のお願いをしたいと答弁しております。

岡安議員から、若者定住促進奨学金返還金補助事業において、学生等の事前登録について、企業の協力も必要ではないかとの質問がありました。ぜひ本事業をご紹介いただき、内定がそのまま採用につながるように企業にも本事業をご活用いただきたいということ、企業においては、企業説明会や採用面接の際にも本事業についてご説明いただき、津山圏域の魅力をアピールする手段としていただきたいと答弁しております。

秋久議員から、文化財の活用について質問がありました。文化財行政においても、従来の「文化財保護」重視という観点から、「公開・活用」に向けた取り組みを進めるようになってきたこと、今後も他地域の活用事例も参考にしながら、多様な手法を工夫して参りたいと答弁しております。

美見議員から、給付型奨学金の導入について、国に働きかけてほしいとの質問がありました。文科省が平成 29 年度概算要求で「給付型奨学金の創設について、事項要求しており、国の動向を見守って参りたいと答弁しています。

河本議員から、勝北のプールで子どもさんが怪我をする事故があったことについて質問がありました。この遊具は営業開始前の 6 月下旬に劣化した部分の修繕工事をした箇所であり、施工業者と事故原因の調査を行った結果、修繕工法に問題点が見つかったため、再発しないよう工法を変えて再度修繕を行ったこと、今後はこのようなことのないよう使用前または日々の点検には万全を期するとともに、修繕内容の事前確認や施工中の立会い、完成後の現場検査を徹底して参りますと答弁しております。また、市内の体育施設駐車場の増設について質問があり、津山スポーツセンター周辺の空きスペースなどの有効活用を研究して参りたいと答弁しております。

一般会計決算議案で、中村議員から、体育施設の使用料の改定幅について質問があり、全庁的な使用料・手数料の見直しの中で、スポーツ施設の使用料について周辺自治体の類似施設の利用料金等を調査した結果、本市のスポーツ施設の利用料金が低い状態で据え置かれている、また、照明利用料についても実際のコストに比べて低く据え置かれていることから均衡が図られるよう改定幅を定めたものと答弁しております。

#### (こども保健部)

こども保健部では、黒見議員から幼稚園施設再構築計画について質問をいただいております。まず、公立幼稚園再構築計画の市民への周知について質問がありました。公立幼稚園再構築計画の基本方針策定時など、節目節目に係る関係会議体への報告や、連合町内会役員会での説明、広報つやまや市のホームページへの掲載、再構築計画概要版の配布、新聞報道を行っていることと答弁しております。次に、再構築計画に対する市民の皆様からどのような意見があったのかとの質問がありました。「地域の園がなくなるのは寂しいが、子どもたちにとっては必要なことだと思うので、単なる施設の集約ではなく、子どもたちにとって、真に素晴らしい園になるように進めてもらいたい。」「現在よりも通園距離が長くなる家庭が多くなるので、通園手段への配慮をしてもらいたい」などの意見や、新設園の開園時期のほか、教育内容や職員体制、制服、通園バスなど、具体的な内容の質問、そして、今後も十分な情報を提供してほしいといった要望があったことを答弁いたしました。次に再構築計画に至る経過の質問があり、平成 26 年に 7 月に、「津山市立教育・保育施設再構築計画検討委員会」を設置し、再構築の実施計画案をまとめ、「津山市子ども・子育て審議会」へ諮問答申、パブリックコメント、教育委員会の協議を経まして平成 27 年 5 月に「津山市立教育・保育施設再構築計画」を作成したことを答弁しました。また、今後の進め方の質問では、津山市子ども子育て審議会のほか、学識経験者や連合町内会、公立幼稚園 P T A の代表の方々が参加した津山市立幼稚園建設検討会を立ち上げていること、庁内の検討組織による検討をして、今後についてこれらの組織を一層機能させて、再構築基本方針に掲げて「津山市の子どもたちにとって、最善の利益が実現されること」、そして、「すべての子どもたちに必要とされる幼児教育を保障する責務や、幼児教育水準の確保」など、公立幼稚園としての役割を充分果たしていける幼稚園になるよう、再構築事業を進めてまいりますと答弁しております。

#### 平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果について(学校教育課)

##### 概要説明

今年度、4 月 19 日に実施しましたテストの速報については、前回の協議会の方でお伝えしておりますので、総括ということにさせていただきます。学力調査の総括については、小、中学校ともすべての科目で岡山県平均を超えていない状況が続いておりますが、小学校においては全国平均に県平均が迫り、津山市も県平均に近い状況にあり、努力をし続けていると思っております。ここ 5 年間の経年変化を見ると、津山市自体が全国平均の状況まで改善してきている。しかし、中学校においては、県平均との差は縮まってはいるものの全国との差は大きい状況です。県の平均も全国平均とかけはなれた中で、津山市も厳しい状況がみてとれます。本年度の結果をみますと、中学 3 年生の結果、その子たちが平成 25 年度の小学校 6 年生の時点を出していた結果と比較した時に、特に数学 A 問題、基礎の問題で差が広がっている状況が厳しい状況だと受け止めています。基礎基本の徹底した取組の見直しが必要であると受け止めているところで、表の得点の結果で点線・実線で示しているのが、平成 25 年度の小学生の時点で同じ子どもたちが中学生でという結果のところを強調させていただいております。また、無回答については、

小学校はほとんどの問題で、全国平均並みという状況ですが、中学校では特に数学において全国と比べて正答率が低かった問題、子どもたちにとって難しかった問題において無回答率が高いという傾向にあります。子どもたちの生徒質問紙によりますと、「全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した」ということについては、全国並みの回答であるということから、基本的な問題の理解が原因で無回答。答えられないという状況。問題を解くのをあきらめるといよりは、わからないので解けない状況があるのではないかとこの状況。特に数学の基礎の力ということについて、手立てを早急にしなければいけない状況だとみています。続いて、学習状況調査の総括をいいますと、テレビの視聴時間や家庭学習等の学習状況については、全国、県、市ともに改善傾向にあります。津山市としてはチャレンジ・ハッピーデーや小中連携での取り組みノーメディア調査など継続的な教師の声かけや働きかけにより意識の向上につながったのではないかと考えられます。しかしながら、テレビの視聴時間は減っているが、家庭学習の時間が増加しているということはみられない状況ですので、メディアから離れた時に子どもたちが学習に向いていないということについてもさらに働きかけが必要ではないかということ。携帯電話やスマートフォンの所持率は増加傾向ですが、中学校の使用率は減少しています。これは、各校で生徒会のルールづくりや岡山スマホサミットでの取り組みの成果とも考えられます。家庭で学校の復習をしている児童・生徒の割合は、年々増加傾向にあります。教師が、家庭学習などの課題を出すときに「意図的な宿題(個々の児童のつまづき)」を意識し課題を出していることが、成果につながっていると思っています。また各校では継続して朝学習の時間などで読書に取り組ませる習慣づけをしておりますが、家庭に帰って読書をしようとする習慣が定着していなく、家に帰ってまで読書をするという結果になっていないことについて、さらなる取り組みが必要と考えています。また、津山の子どもたちが地域行事に参加していることは、例年、そういういい結果がでていることは、見てとれますので、津山の子どもたちの良さを伸ばしつつ、課題に向けての取り組みを考えていきたいと思えます。各学校においては基礎の定着のために、何をどこまでやっていくのかというPDCAサイクルをまわしていくということについて、改善計画をだしていただきながら、対応していくというように考えています。

### 津山市立教育・保育施設再構築(加茂・阿波地区)の変更について(こども課)

#### 概要説明

市では、平成27年度から31年度を期間とする津山市立教育・保育施設再構築計画を平成27年5月に策定しております。その内容といたしましては、津山市内を津山地区、加茂・阿波地区、勝北地区、久米地区の4地区に分け、各地区の人口推計や保護者アンケートの結果に基づき算出した各地区の教育・保育ニーズへの適切な対応を図るため、公立の幼稚園・保育所を再構築することとしております。このうち、加茂・阿波地区につきましては、現状の施設として、公立では、加茂幼稚園と公郷保育所があり、平成25年度から休園中の阿波幼稚園の3施設があります。そして、私立の加茂保育園の1施設があるため、合計では4つの教育・保育施設があります。しかし、今後のニーズ量である保育の必要量を踏まえ、計画では、公郷保育所と休園中の阿波幼稚園は平成29年度末で休園、加茂幼稚園は民間の加茂保育園と十分協議の上、3歳以上を対象とする幼保連携型認定こども園への平成30年度からの移行に向けて検討、また、加茂幼稚園が認定こども園に移行する場合は、運営の民間委託を検討するとの方針を示しておりました。その後、加茂保育園とは、地区のニーズ量を考慮に入れながら、加茂・阿波地区での認定こども園の開設について協議を継続しておりますが、加茂幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行という方向性自体が定まっていないため、平成30年度の段階では、公郷保育所を閉園した場合の園児の受け皿がまだ十分整っていない状況となります。このような状況の中で、平成29年度末に公郷保育所を閉園しますと、子どもたちはもちろん、保護者の皆様にも多大な御迷惑をおかけすることとなります。さらに、津山地区の既存の幼稚園につきましては、当初平成29年度末で閉園予定としておりましたが、すべて平成30年度末に1年延期しております。これらの状況を踏まえ、休園中の阿波幼稚園と併せて、公郷保育所の閉園時期を平成29年度から平成30年度に1年延期することといたしましたのでご報告させていただきます。本日、午前中に開催されました「子ども子育て審議会」でもご了承をいただいております。

## 7. その他

### (1) 各課からのお知らせ

#### 第45回つやま市民スポーツ祭について(スポーツ課)

#### 概要説明

第45回を数えますつやま市民スポーツ祭が開催されます。日時が10月9日午前9時から午後3時まで。会場は、津山陸上競技場及び津山スポーツセンター。主催はつやま市民スポーツ祭実行委員会で、津山

市体育協会の小坂田昌平さんが、実行委員長を務められております。内容につきましては、陸上競技場で、開会式、競技、閉会式、大抽選会と進み、同時並行で、 から のいろいろな会場を使いいろいろなメニューを開催します。これは、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、さまざまな体育関係の方々の実行委員会の組織の中に加わっていただきまして、市民総がかりで皆様をお迎えするかたちをとっております。その他のところですが、教育委員さんにもご案内させていただいておりますが、ご来賓で来ていただける方につきましては、陸上競技場正面から入りまして、北側駐車場に駐車許可証をダッシュボードの上に置いていただきながら、お越しいただけたらと思います。

### 【シリーズ美】講演会について（文化課）

#### 概要説明

おかやま県民文化祭地域フェスティバルが 11 月に津山城をメインに行われますが、その事業の 1 つとして「シリーズ美」というテーマで講演会を全部で 6 回開催します。今回は 10 月に開催されるその前半の 3 回の講演のチラシを配布させていただいております。1 回目は「武士の絵画 津山藩の絵を描く武士たち」と題しまして、津山郷土博物館の尾島館長を講師に 10 月 9 日（日）に開催します。津山藩の文人と呼ばれた武士たちについてのお話、2 回目は「まちの人々と、アートの素敵な関係」10 月 22 日、オフソサエティの永田代表・ディレクター、この方は津山の美術館の審議会等で、大変お世話になった方でございます。十和田市の現代美術館を手掛けたりして、特に美術館における集客戦略にたけた方でございますけれども、その方の講演を 22 日（土）に予定しております。3 回目が、「森忠政は何を考えて津山城を築いたのか～その構成美～」ということで、広島大学名誉教授の鈴木充先生に来ていただき、10 月 30 日に開催します。鈴木先生は、郷土博物館にございます津山城の模型の監修、備中櫓の復元、津山城のコンピューターグラフィックスの監修をしていただいている先生。古建築の権威と言われている先生です。津山城をよく知り尽くした先生ですが、おそらくこの先生の講演は、久しぶりであろうと思います。非常に面白いお話が聴けるのではないかと思います。11 月 30 日に開催されます。いずれも津山市立図書館と共催で、図書館の視聴覚教室で開催いたしますので、お時間がございましたら、お越し下さいというご案内です。

#### (2) 次回定例会の開催について

教育委員会会議 10 月定例会を、平成 28 年 10 月 27 日(木)午後 1 時 30 分から開催。  
全員賛成により決定

#### (3) その他（なし）

## 8. 閉会

(14 : 32)